

# 「安全指示を伝える」

CSP労働安全コンサルタント 二階堂 久

## 『吊り荷の下に入らない』はダメ！

10数年前、本誌に「伝えるための安全指示」というテーマを取り上げたことがありました。図表1のように、あいまいな表現では相手に安全指示が伝わらない、という内容でした。

発言や議事録からリストアップした あいまいな言葉	
● (ただ単に) 注意する	「足元注意」「手元注意」「墜落注意」 「感電注意」など
● (抽象的に) 徹底する	「合図を徹底する」「玉掛を徹底する」 「誘導を徹底する」など
● 打ち合わせをする	打ち合わせの会議で「(作業前に) よく 打ち合わせしてから~する」など
● 程度や数量の副詞を多用	「十分に」「入念に」「かなり」「しっかり」 「すぐ」など
● (ただ単に) 安全帯使用	どこに掛けるのか、掛ける所があるか

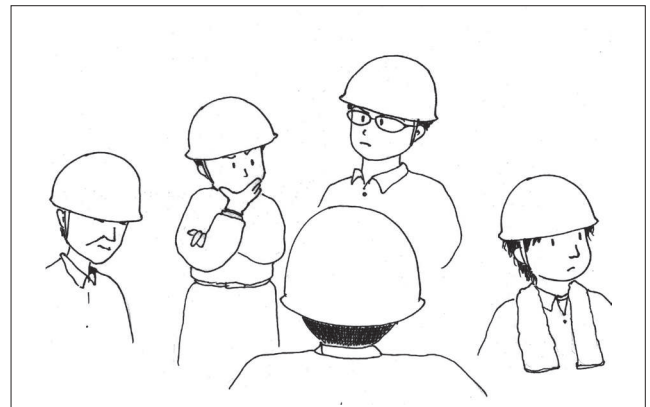
(図表1)

たとえば、

- × 「足元注意」  
：足元の何に注意するの、どこが危ないの
- × 「合図を徹底する」  
：徹底とは何を、どうすればいいの
- × 「安全帯使用」  
：どこに掛けるの

などです。「(ただ単に) 安全帯使用」はその後追記しました。山留材の腹起しや建屋の梁材を解体する時に安全帯使用として、実際には掛ける個所がなく、墜落した事例が続いたことがあったからです。

この当時は、職長・安全衛生責任者や作業者が行う危険予知(KY)活動を念頭に置いていました。



(図表2)

月日が経ち、建設現場では図表3のような危険予知活動の帳票を多く見かけるようになりました。本日の行動目標の書き方を具体的に指定しています。下請会社の作業者がわかりやすいようになりました。

危険予知活動表	
危険のポイント (洗い出し)	本日の行動目標 (~を、~して、~する)

(図表3)

一方、元請会社が開催する昼の打ち合わせ（安全衛生工程会議）で、下請会社に対する安全指示事項に否定語が目立ちます。『吊り荷の下に入らない』などです。主なものを図表4に集めてみました。打ち合わせ簿（日誌）に記載されていたものです。

主な場面	否定語による安全指示
資材置場	・荷崩れさせない ・高く積まない
クレーン作業	・吊り荷の下に入らない ・クレーンを転倒させない
車両誘導	・死角に入らない ・ダンプに轢かれない
坑内動力車の走行	・脱線させない ・逸走させない
埋設物の近接作業	・埋設物を損傷させない ・地山を崩壊させない
架空線の近接作業	・架空線を切断しない ・感電しない

（図表4）

誰も自ら進んでクレーンで吊られた鋼材、配管材、セグメントなどの下に入って、被災しようとは思っていません。作業に夢中になるあまり、知らず知らずのうちに吊り荷の下に入ったのかもしれませんが。

元請会社が下請会社に一番伝えたい安全指示は「～しない」としては伝わりません。「～しない」ことを指示しておいて、危険予知で「～する」ことは自ら考えなさい、は本末転倒です。

作業者の注意力に頼るものは、安全指示と言えないでしょう。作業者が誤りそうな時、一旦立ち止まり、抑止力になるものが有効です。

具体的な安全指示の例として、

- 荷崩れさせない
- ◎〔資材名〕は△段積みまでとする
- ◎運搬する時は荷締めベルトで固定する

- 吊り荷の下に入らない
- ◎（地上作業）吊り荷旋回内は保安材で囲う
- ◎（立坑下作業）坑内に避難する
- 死角に入らない
- ◎運転手の見える位置で誘導する

また、これらのことはリスクアセスメントのリスク低減対策の中にも見受けられます。元請会社の管理者は自社の帳票をチェックしてみてください。

## ●<sup>あうん</sup>「阿吽の呼吸」を期待してはダメ！

安全指示に限りませんが、上司から部下への指示、部下から上司への回答にも伝わりにくいものがあります。伝え方のあいまいさに言葉が持つあいまいさが相まって、会話になっていない場合があります。典型的なものが、“大丈夫”“わかりました”“いい”の3つでしょう。

- 〔事例1〕 上司『あそこの支保工は大丈夫か。』  
部下『大丈夫です。』
- 〔事例2〕 上司『ベルコンに非常停止装置と挟まれ防止を付けてくれ。』  
部下『わかりました。』
- 〔事例3〕 職長『コンクリート、いいか。』  
作業員『コンクリート、いいよ。』

事例1は、“あそこ”と“大丈夫”の2か所で伝わっているか不明です。

工事現場であれば、平面的に広い場合が多いですし、断面的にも深かったり高かったりします。“あそこ”が特定されません。“大丈夫”も何をもって大丈夫かが不明です。監理技術者と若手社員では違うでしょう。

事例2は、前号の冒頭で紹介したものです。

はさまれ・巻き込まれ防止のため、金網を設置してから非常装置の取り付けるのが手順です。

事例3は、“いい”の意味が“コンクリートを打設して良い”のか“もういい”とどちらでも解釈できません。筆者の体験事例でした。

今号の内容は、安全だけではなく、品質にも関わる場合があります。若手社員研修や職長・安全衛生責任者教育のグループ討議に取り入れて活用してください。